

BOSAI 人材育成プログラム in 双葉 & 富岡を開催しました (2025/10/3-4)

テーマ：福島浜通り、BOSAI 人材育成、東北大学 FUKUSHIMA サイエンスパーク
会場：東日本大震災・原子力災害伝承館、富岡町文化・交流センター

はじめに

東北大学グリーン未来創造機構（本研究所教職員が連携）では、FUKUSHIMA サイエンスパーク構想を立ち上げ、その構想の主要施策の一つとして、福島浜通りから世界へ発信する BOSAI 人材育成の取り組みを進めています。

本イベントでは、浜通り地域で進められている復興・防災活動の実践や研究を紹介するとともに、複雑化する災害や社会活動に対応できる BOSAI 人材像や教育プログラムのあり方を議論するためのワークショップを実施しました。ワークショップに先立ち、震災地での町歩きや東日本大震災の伝承施設などの視察も行い、総合的に理解を深めました。

今回の開催は、昨年度 10 月の浪江町、今年度 7 月の南相馬市・大熊町に続くもので、双葉町・富岡町の 2 会場で行われました。

【1日目】BOSAI 人材育成プログラム in 双葉

開会挨拶では、湯上浩雄理事（東北大学理事・副学長／グリーン未来創造機構長）および森隆史副町長（双葉町）からご挨拶をいただきました。

続いて、以下の 3 件の話題提供が行われました。

「東北大学の FUKUSHIMA サイエンスパーク構想について」

講師：今村 文彦 教授（東北大学 副学長／津波工学研究分野）

「双葉町の復興まちづくりにおける現状と課題について」

講師：森山 和久 氏（双葉町 復興推進課 係長）

「地域活動拠点 FUTAHOME」

講師：荻谷 智大 クロスアポイントメント特任准教授（空間デザイン戦略研究分野）

その後のワークショップでは、齋藤玲助教（東北大学大学院情報科学研究科／認知科学研究分野）がコーディネーターを務め、「福島浜通りから発信する BOSAI 人材育成」をテーマとして、その講座の構成・内容や教えなど、プログラムの方向性について活発な意見交換が行われました。

「BOSAI 人材育成をより多くの人たちに学んでもらうために、SNS やインターネットサービスをいかに活用できるのか」、「難しい内容を、いかに子どもたちや初学者にとって分かりやすいものにできるのか」、「初級編を受講いただく入り口をどのように広げるか。いかに入りやすくハードルを下げるか」という質問や要望をいただきました。参加者は、学生・研究者・地元企業関係者・自治体職員・地域実践者など多様な立場から構成され、対話を通じて課題共有と将来構想の検討が進められました。

【2日目】BOSAI 人材育成プログラム in 富岡

開会挨拶では、湯上理事および宮川大志副町長（富岡町）からご挨拶をいただきました。

続いて、以下の 3 件の話題提供が行われました。

「東北大学の FUKUSHIMA サイエンスパーク構想について」

講師：柴山 明寛 准教授（災害文化アーカイブ研究分野）

「富岡町における活動紹介（東北大学）」

講師：本間 香貴 教授（東北大学 農学研究科）

「富岡町における活動紹介（地元企業）」

講師：穂積 香奈 氏（株式会社ふたば）

（次頁へつづく）

その後、1日目と同様にワークショップが行われ、マルチステークホルダーにて丁寧な対話の様子が見られました。

「（BOSAI 人材育成プログラム初級編の）受講者に学びを学びと感じさせないように、いかに負担感や圧迫感を感じさせずに、気がついたら学んでいるというような仕組みにしていきたい」、「自分たちが関わった、参画した、つくりあげたプログラムであるというものにもしていきたい」、「学生との対話がとても学びになった（住民や企業の方の目線として）」、「市民や自治体、企業の方とのワークショップを通じてさまざまな見方を獲得することができた（学生の方の目線として）」といったアイディアや感想をいただきました。地域と大学が協働し、今後の BOSAI 人材育成の方向性を検討する有意義な機会となりました。

おわりに

現在、千釜章学術研究員（地震津波リスク評価（東京海上日動）寄附研究部門）を中心として実施しているこれまでのワークショップでのレポートやアンケートの分析も踏まえて、東北大学 FUKUSHIMA サイエンスパーク・BOSAI 人材育成の本格実施に向けて、取り組みを加速度的に進めております。多くの方々からのご賛同とご支援をいただけるよう、引き続き全力で前進していきます。

感想として以下のようなものもいただいております。そのなかのいくつかをご紹介します。

「育成した人材の方々が、これからどこでどのように仕事、生活をしていくのか 住民の生活にどのように溶け込んで浸透させていくのか 育成した人材に期待を持ってもらえる福島県にして福島から発信していける地域づくりにも期待します」

（双葉会場・企業の方・40代）

「多くの学生がこの地を訪れて、このプログラムを通じて何かを感じたり行動を起こすきっかけになる、そんなプログラムだと思います。また、この地に暮らす者として、この時間を共に過ごすことができたのはとてもありがたかったです。」

（富岡会場・企業の方・40代）

「単なる防災人材育成では、全国どこでもできてしまうと感じています。福島だから、双葉郡だからできること、ここから日本中、世界中に発信できる防災人材育成プログラムにさせていただくことを期待します。」

（双葉会場・地方公務員の方・40代）

「今回のイベントを通して、防災に関する知識だけでなく、実際の現場に基づいた考え方や対応の重要性を深く学ぶことができました。特に、講義やワークショップで得られた多角的な視点は、自分自身の理解を広げる非常に良い機会になりました。実践的な内容が多く、今後の研究や生活にも活かせる貴重な経験となりました。貴重な機会をいただき、ありがとうございました。」

（2日間参加・大学生・20代）

文責：千釜 章（地震津波リスク評価（東京海上日動）寄附研究部門）
齋藤 玲（東北大学大学院情報科学研究科／認知科学研究分野）

副機構長
長

北 大 学
リ ー ン 未 来
造 構 造
BOSAI
人 材 育 成
BOSAI HUMAN RESOURCE DEVELOPMENT



今村教授による話題提供



1 日目登壇者（双葉町）



2 日目登壇者（富岡町）



福島浜通りから世界へ発信する BOSAI 人材育成についてマルチステークホルダーで対話するワークショップの様子



ワークショップの様子